

# デーリー東北

2026年(令和8年)1月15日(木曜日) (16)

八戸工業大と八戸市立市民病院は、救急車が同病院の敷地内をスムーズかつ安全に通ることができる環境整備に向けて共同研究を進めている。14日は同大学で学生11グループによる改善案の発表が行われ、救命救急センター前で発生する車両と歩行者の混雑緩和を図る複数のアイデアを提案した。

センター前の横断歩道は人と車両の往来が激しく、救急車が人の横断を待つ時間が患者搬送の妨げになるケースがあるという。病院側が同大工



救急車のスムーズな通行に向け、アイデアを発表する八戸工業大の学生11日、八戸市

## 八戸市民病院敷地内

# 救急車円滑通行 八工大共同研究 遮断機、蓄光標示など提案

## 救急車円滑通行 八工大共同研究

学部の浅川拓克教授に相談を持ちかけ、共同研究に着手。学生主体のプロジェクトとして同大工学部と感性デザイン学部の学生が参加している。

昨年11月下旬の会合では交通量の実態調査などが報告された。これを受け、学生は救急患者の迅速な受け入れと、事故リスク低減につながるユニバーサルデザインを探ってきた。

この日は、学生がグループごとに車両、歩行者双方からの視認性向上や動線確保のためのアイデアを発表。▽遮断機の設置や通路を区切る花壇の整備▽蓄光塗料を使った道路標示▽救急車の進入経路の一方化―などの案が示された。

提案を聞いた同病院の今明秀事業管理者は取材に対し「驚くようなアイデアがあった。実現性だけを優先せず、世の中を先取りした独創性や見栄えも含めて考えたい」と話した。今後、病院側で採用する対策の候補を絞り検討を進めるといふ。

(船渡拓)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。